



G20開発会議に日本政府代表として参加

医の心で国を守る

衆議院議員 外務大臣政務官

日本医科大学特任教授

千葉県医師会顧問



自民党

松本ひさし通信

MATSUMOTO Hisashi, MD, PhD, MBA

〈発行〉松本尚政策会議 〒270-1345 千葉県印西市船尾1380-2 TEL:0476-29-5099 FAX:0476-85-4199

討議資料

保守思想と私の国家「軸」

トランプ大統領が「米国第二」のスローガン通り、国際協調より国益を優先した政策を強引に進めています。欧州各国では、民族主義的で排他的な、いわゆる右翼政党が国会での議席を増やしています。自由と民主主義を同じ価値観に持つこれらの国々が、まるで第二次世界大戦後に後戻りしているようです。

我が国でもこのような傾向が高まっています。これまでの政治は、伝統主義的に国家を重要視する「保守」派と革新的に個人を重んじる「リベラル」派との対立で語られてきましたが、昨今はこれに変化が生じています。LGBT理解増進法制定時の自民党内の混乱、一向に進まない憲法改正などが、保守的考えを持った旧来からの自民党支持層の離反を招いたことがその一因でしょう。今夏の参議院選挙の結果をみてもそれらは明らかです。

そこで今回の通信は、改めて私の「保守」に対する考えを示すことにします。

守るべきもののつらさ

結論から言えば、「守り続けるべきものを守り秩序の中に進歩を求める」、「大切な価値観を守るために変えるべきことを躊躇しない」——これが保守の在り方です。

日本国は、長い歴史と固有の文化を持ち、美しい自然を守りつつ、和を尊び、家族や社会が互いに助け合って生活をしてきた国です。先祖から受け継いだ良き伝統と秩序を永く子孫に継承していくことが、日本人が持つ大切な価値観です。そのために何を守るべきか、何を変えねばならないのか、そういった国家の「軸」をきちんと示すことが政治には必要なのです。今の自民党はこの「保守」とは何か？を忘れているのです。

この守るべきものについて、私は、①男系男子による皇統維持、②日本の国土、③日本人の心の三つを挙げたいと思います。

まず、一番目は絶対に譲れません。これは日本の国柄そのものであり、国連機関の言う男女平等とか、欧州の王室には女系王も存在するとかという話とはまったく異なります。古くから日本人は「八百万の神」を大切に日々祈りを捧げてきました。天皇はまさにその祈りの代表者であり、国の「祭祀の執行者」として国家安寧を祈る神事を執り行われておられます。その権威は脈々と続く血統の統一性(医学的に言えば、ただ一つのY遺伝子)に依拠しているのです。これが憲法にも定められた国民——即ち日本人の「象徴」そのものと言って良いのです。この血統を蔑ろにすることは

絶対にできません。

そして、女性皇族が婚姻後も皇族に留まり皇族数を確保することと安定的な皇位継承は別問題です。皇位継承を確かなものにするために、皇統に属する男系男子を、養子縁組により皇族とすることや直接皇族とすることを一刻も早く決めなければいけません。また、皇族数の確保のために内親王・女王が婚姻後も皇族の身分を保持する際も、僅かでも女系天皇が生じる可能性を排除するためにその配偶者や子は皇族としてはならないのです(女性天皇を反対はしません)。

豊かな国土の大切さ

第二は我が国の国土です。言うまでもなく国家の三要素は「領域」、「国民」、「主権」です。領土・領海・領空を守ることは国家としての必須の営みです。自由と民主主義、法の支配といった価値観を異にし、核を保有する中国・ロシア・北朝鮮の脅威から我が国の領域を防御しなければなりません。同時に、そのために日夜奮励努力する自衛官に敬意を表し、彼らを大切にすることも日本国民の務めでありましょう。

国土とは単に領域だけを指すものではありません。我が国が昔から営んできた農地や漁場を守ることまでも含みます。山や野、海を大切にしながら皆で田畑を耕し、魚を獲ってきた——現代社会ではどんどん壊れている、そんな豊かな日本の自然と原風景を取り戻さなければなりません。それは第一次産業の復興と食料安全保障そのものです。

さて、NATOは防衛費をGDPの5%目標とすることを合意しましたが、防衛装備の高度化・無人化や自衛官の処遇改善に対応するためには、我が国も現状の2%目標を引き上げざるを得ないでしょう。「安心安全に暮らしたいけれど、お金は負担したくない」では通用しないくらい隣国の軍事的脅威が増しているのです。南シナ海と太平洋への進出を企てる中国の脅威に対抗するためには、国民全体で防衛費を負担することもやむを得ません。そのためには経済成長を続けることが大切です。安定的な賃金上昇があれば税収の増加分を防衛費に充てることが可能になります。経済成長率が国債金利を上回っていれば防衛国債も発行できます。ここが国土を守ることのキーポイントです。



栄町の水田地帯にて

忘れてはいけない心

三つ目は、「和を以て貴しと為す」という言葉に集約されます。島国である我が国は昔から、神社を中心とした集合体を作り、五穀豊穡を祈り祝い、寺社を通して先祖を崇め、家族や社会で助け合いながら農作物を育てていかなければならない環境でした。今でもそうです。中世の戦乱期はあったにせよ、「和」の心で国を長く守り続けてきたのです。

我々は、その歴史を見つめ、現代社会においてもその風習と文化を守り、次の世代に受け継ぐ必要があります。さらには、日本人の精神性——例えば、「悪いことしても」お天道様が見ているよ」といった法や社会規律を超えた道徳性を持ち続けなければいけません。近代化に伴い、地域の「コミュニティ」を失い、核家族化と共働きの増えたことでそういった精神性が薄れつつあります。競技場などで綺麗に「ゴミ」を片付けて帰る日本人の話が報道されるにつれ、「まだ大丈夫」と思うのですが、反面でもこの先は？と不安になります。だからこそ、家庭と社会における躾や学校教育の在り方をもう一度考え直す必要があると考えています。

靖国参拝問題についてもこの文脈で捉えています。靖国神社は明治維新前後の動乱期〜明治期、そ

印西事務所

自由民主党千葉県第十三選挙区支部

〒270-1345
千葉県印西市船尾1380-2
TEL.0476-29-5099
FAX.0476-85-4199

国会事務所

〒100-8981
東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1009号室
TEL.03-3508-7295
FAX.03-3508-3505

松本ひさしの活動は、ホームページやSNSで発信中!



ホームページ



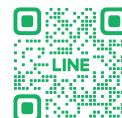
X



Facebook



YouTube



LINE公式アカウント

松本ひさし

検索

matsumotohisashi.com

して昭和期の戦禍で命を落とした人達が祀られている社です。

国の礎を作り、国の繁栄を信じて命を散らしたすべての先人のために祈る場所に、日本人が、総理大臣が、天皇陛下が参拝することになったの障壁があるのか？そろそろこの問題は終わりにしなければなりません。

ちなみに私は靖国神社には行きたいときに行つて、「国家繁栄のために精一杯務めて参ります」との決意を誓い申し上げています。それが日本人の心だと信じて疑いません。

先の通常国会でも議論になりましたが、夫婦の姓についても記しておきます。旧氏の使用機会を増やし、必要であれば今後はそれには法的根拠を与えることで、社会生活を営む上での障害はなくなるでしょう。残るのは、旧氏を使えないことでアイデンティティを失うという「氣持」の問題ですが、それは法律で保護すべき問題ではありません。日本の社会の秩序を保つ基本単位である「家族」を大切に守っていくためにも、姓を「一にする」とは変えてはならないものです。

もう一つ、参院選では外国人問題が争点になりました。この問題も「日本人の心」と大きく関わってきます。

我が国は欧州とは異なり島国であるために、永く外国人の流入が物理的に抑制されてきました。しかし、労働力確保の点から門戸を大きくしたことで欧州と同様、治安や日本人との共生の面で問題が起こるようになりました。そこで政府は、「ルールを守れない外国人は速やかに退去させる」として「不法滞在者ゼロプラン」を打ち出しています。

大事な点はここからです。私はこの「ルール」の部分には、単に我が国の法律だけではなく、日本の文化や風習、習慣という意も含めたいと考えています。これらを理解してもらうことが自民党の主張する外国人との「秩序ある」共生につながります。

前述のとおり、日本人は「以和為貴」の精神を持っています。このことは現代においてもなお、日本人の心しっかりと根を張っているはずで、この心を外国人問題解決の基礎とすることが大事だと考えます。他方で、野放図に土地・不動産等、我が国の資産が外国

人の手に渡っていくことは抑制すべきです。排外的思考は労働力の必要な我が国にとって適切ではありませんが、規制と秩序ある共生のバランスを考えた法整備を進めたいと思います。

大事ななのは、「日本人ファースト」ではなく「日本人の心」です。

正しい保守的思考とは

一部の保守層（と言われる人）は、例えば、中国軍が日本の領海領空を侵犯しても政府は遺憾と言っただけと批判します。しかし実のところは、中国軍は自衛隊の警戒・監視を相対に嫌っていて、日本近海における恣意行動を行うことで自衛隊の能力分散を企てているのです。裏を返せばそうさせるだけの能力を自衛隊が保持していて、現状、十分に抑止力は機能していることとなります。これは一例に過ぎませんが、「日本の防衛力は弱い」、「日本外交は媚中で弱腰だ」といった短絡的、攻撃的な思考は正しくはないのです。

安倍元総理から生前、お話を伺う機会があったときに、「国民のためになると思つたらブレずに政策を推進する。一方で100点満点を目指すのではなく、50点でも60点でもいいから現実的に少しでも前進させることが大切だ」と仰っていました。そして、「過激な保守主義を標榜する人は、無理な目標で100点満点を求めるんだよね。結局、何も進まないだけだ」とも。

私も、「何がなんでも斯くあるべし」という狭量な考え方は取りません。と言つて、物わり良く妥協することもあります。できる限り多くの国民が幸せになるための法律を作り、政策を実行していくための決定を下す、これが政権与党の責任であり、その力が政権担当能力だと思っています。

もちろん、国の根幹に関わる政策である男系男子の皇統維持、国の防衛、憲法改正については一歩も退きません。50点、60点の現実的前進は手段であつて、到達目標は揺るがないのです。

国家の歴史と伝統を守ることは未来を守ることです。理念は保守、戦略は現実主義――

しかしその現実主義は「妥協」ではなく、「到達意志」と「実行力」を伴うものです。根幹の目標は決して譲らず、過程を国民に説明し、誰もが検証できる政治を行うことで、保守硬派から若い世代まで、幅広く支持を得たいと思つています。

最後に、8月3日の産経新聞に掲載された伊吹文明元衆議院議長の発言を引用紹介します。

「保守という言葉は定義もなく、乱暴に使われます。本当の保守は、自由と民主制を前

イスラエルとパレスチナ訪問

外務大臣政務官として、8月12日～16日にイスラエル（エルサレム）とパレスチナ（ヨルダン川西岸地区ラマッラ）を訪問しました。目的は、現下のガザ地区の人道状況とパレスチナの国家承認問題に関して、日本政府としての見解と私個人としての考えを双方に伝えることでした。

滞在中、イスラエル側はサアル外務大臣他2名、パレスチナ自治政府側はアッバス大統領他3名の政府代表との会談を行いました。テロ組織ハマスのイスラエル襲撃を断固

非難し人質の解放を求める旨を双方に伝えました。イスラエル側にはガザ地区におけるパレスチナ人の保護を強く実施すること、現在の人道支援を無視したガザ攻撃は国際社会の理解を得られず、イスラエルにとって好ましくはないことを伝えました。一方で、パレスチナ側にも透明性のある政府運営を行うべきであることと伝えました。



Gaviワクチンアライアンス会議で、私と同じ医師でもあるフォン・デア・ライエンEU委員長と

とを伝えました。双方ともこれまでの主張を繰り返すのみではありませんでしたが、特に、「国家承認の有無に問題を矮小化すべきではない。ガザのハマスを殲滅しても西岸が経済

提とし、自分は間違つたとの謙虚さを持つて、祖先が長年にわたり積み上げてきた伝統的規範というか、暗黙の約束事に立ち戻り、物ごとを判断していく思想だと私は考えています。だから、その伝達装置としての国家や地域社会、家族が崩壊しないように努力していく。国の歴史を一方的に美化したり、個人のうえに国家を置く思想ではありません。健全な日本社会を次の世代に渡していくために、今だけ良かったらよいというポピュリズムと一線を画してほしいですね。



オハナ イスラエル国会議長との会談



ムスタファ パレスチナ自治政府首相との会談



イスラエルのサアル外務大臣と会談



パレスチナ自治政府のアッバス大統領と会談

的に自立できなければ、次のハマスを生むだけであり、西岸の経済支援に注力すべきである」という私の主張にはいずれも強い関心を示していました。

9月には日本政府はパレスチナの国家承認についての見解を発表すると思いますが、私の会談がその判断の参考になれば良いと思います。

プロフィールと活動

松本 尚 1962年6月3日生まれ
(まつもと ひさし)

日本医科大学特任教授 千葉県医師会顧問

昭和37年石川県金沢市生まれ。昭和62年金沢大学医学部卒業。救急医・外傷外科医。医学博士。日本医科大学特任教授。千葉県医師会顧問。日本医科大学千葉北総病院副院長・救命救急センター長を歴任。ドクターヘリの普及に努め、この分野での第一人者となる。ドラマ「コード・ブルー」のほか多数の医療ドラマを監修。千葉県災害医療コーディネーターとして同県のコロナ対策を主導した。

- 昭和62年 金沢大学第2外科学教室入局
10年間にわたり外科医として勤務
- 平成12年 日本医科大学救急医学教室入局
以後救急医・外傷外科医として勤務
- 平成13年 ドクターヘリ事業開始
フライトドクターとして同事業を全国に普及する
- 平成20年 ドラマ「コード・ブルー」の医療監修
以降多数の医療ドラマの監修を務める
- 平成21年 NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」に出演
- 平成26年 日本医科大学教授就任

- 平成29年 経営管理学修士(MBA)取得
(英国Anglia Ruskin大学)
- 令和2年 千葉県医師会理事就任
産経新聞「正論」執筆メンバーに加わる
- 令和3年 第49回衆議院議員総選挙当選
(千葉県第13区)
日本医科大学特任教授就任
- 令和5年 防衛大臣政務官
千葉県医師会顧問就任
- 令和6年 第50回衆議院議員総選挙当選
(千葉県第13区)
外務大臣政務官 就任